

文学部 国史学科

生きる力を身につける
学部学科のまなび
(3)

学びのPOINT 1

古代・中世・近世・近現代の各時代と東洋史に専任教員を配置。

学びのPOINT 2

国内外の史跡や博物館などを訪ねるフィールドワークが充実。

学びのPOINT 3

歴史の研究を通して、現代を読み解き、未来を見つめる力を養成。

各コースで学ぶこと

歴史教育コース

歴史的に貴重な古文書などの文献、古い史料を自分の力で読み解くことで、歴史の事実を発見する力を修得。中学・高校の教員(社会、地歴・公民)をはじめ、歴史に関わるさまざまな分野で活躍する人を育成します。

文化財コース

学内の神道博物館や、隣接する神宮文庫・神宮徴古館の貴重な古文書などを扱う実習を通し、文化財を取りあつかう力や、文化財から歴史を体感できる力を養います。また古文書の読解を通して歴史研究法も身につけます。

教科書には

載っていない事実を知る。

歴史を学ぶ醍醐味を実感。



桃原 快さん

文学部 国史学科 4年
岐阜県立関高等学校出身

学科を選んだ理由

日本史に特化した「国史学科」という学科名に魅力を感じました。

高校生の時から歴史に興味があり、日本史に特化した学科であること、神宮の知識と歴史を学ぶ伊勢市にあることにひかれ、皇學館大学国史学科を選びました。授業では、史料を読むために必要な知識や漢文などについて基礎から丁寧に指導していただけます。また、日本だけでなく、欧米や東アジアの歴史も同時に学ぶことで学修に奥行きが生まれ、物事を多角的に考える大切さも学びました。

学科の学びの魅力

史料をもとに事実を追究するワクワク感。フィールドワークも充実。

古代・中世・近世・近現代の各時代を専門的に学ぶことが特徴です。私は近現代史を専攻し、日本が先の大戦に突入していった時代背景について研究しています。多様な史料を調べることで、教科書には載っていない事実を知ることができ、新しい観点で日本史を考察する楽しさを実感。博物館や史料館でのフィールドワークなど、歴史の足跡を肌で感じる貴重な経験もできました。

将来の目標

子どもたちに「歴史」の楽しさを伝えられる社会科教員をめざします。

現在、中学校(社会)、高等学校(地歴・公民)の教員免許の取得に向けて勉強している最中です。私は大学で、教科書には載っていない出来事を発掘する楽しさに出会ったことにより、歴史がますます好きになりました。また、仲間とともに同じ目標を成し遂げた時の達成感と喜びは、かけがえのない思い出です。卒業後は社会科教員になり、「国史」の魅力と歴史を学ぶ楽しさを生徒たちに伝えたいと思います。

学びで
見つけた
生き方

自分で考え、自ら行動する力。ともに目標に向かう仲間の大切さ。